

## ◎令和2年度 國學院大學栃木中学校 入学式式辞

ここ太平台も、色鮮やかな花々に包まれ、春の香りが満ち溢れる、春爛漫の今日の佳き日に、國學院大學栃木学園理事長木村好成先生ご臨席のもと、第25回国學院大學栃木中学校入学式を挙行できますことは、大きな喜びであります。

25期生60名の新入生の皆さん、入学おめでとう。今、ここに中学生として座っている感想はどうでしょうか。皆さんの顔をこうして拝見しますと、とても輝いて見えます。皆さんは中学受験という試練を乗り越え、晴れて本校の一員となりました。皆さん一人ひとりの胸の中には、これから始まる中学校生活に新しい希望の火が燃え、「よし、頑張るぞ」という大きな決意と、今までと違って通学時間が長くなり、知っている友だちがいないなどから、新しい環境に対して「やれるかな」という多少の不安が入り交じっているものと思います。しかし、大丈夫です。心配はいりません。皆さんの両側に座っている先生方を始め、私たちは常に皆さんを見守り、そして寄り添っています。また、上級生である二年生・三年生もきっと皆さんを親切に教え導き、手本を示してくれます。これからの毎日は、皆さんにとって小学校時代とはまた違った新鮮で、新たな喜びがあるでしょう。大いに期待して下さい。

さて、その皆さんが自ら選んだ本校は、私立学校であり、私立学校には建学の精神があります。建学の精神というのは、学校が造られた目的や理念のことですが、本校は國學院大學の付属校であり、國學院大學の建学の精神が本校の建学の精神となっています。その精神とは、「国体の講明」「徳性の涵養」、つまり「日本の文化や伝統・歴史を研究し、日本人としての良識や道徳心を養い育て、立派な日本人として生きていく」ことです。それを具体的に表したものが「たくましく 直く 明るく さわやかに」の校訓です。皆さんは、この校訓をしっかりと胸に刻み、6年間を過ごして行って下さい。

では、皆さんが入学して六年間ここ太平台で過ごすにあたり、心掛けてほしいことをいくつか述べたいと思います。

皆さんは、中庭にある銅像を見たでしょうか。あの銅像は、初代高等学校長で理事長も務められた佐々木周二先生の像です。佐々木先生は「鍛える教育」を掲げられました。そして、「頭力 心力 体力」の三つの力をバランスよく鍛える、それが佐々木教育と言われるものの一つであり、初代中学校長、現理事長の木村好成先生が受け継がれ、今の高等学校、中学校の教育の根本がそこにあるのです。「鍛える」のは、皆さんが限りない可能性を持っていることを信じているからです。鍛えれば、人は思っている以上に成長します。私たちは、そういう先輩たちを数多く見てきました。ですから、皆さんも大きな夢を持ち、様々なことに挑戦し、鍛えることを意識して毎日を送って下さい。國學院栃木は、たくさんの挑戦の機会があります。毎日の学習活動はもちろん、文化祭・体育祭、海外研修などの学校行事、部活動、生徒会活動など、あらゆる機会を自分自身を鍛える場でもあるととらえて、全力で取り組みましょう。そして、それらを大いに楽しみましょう。そうしてこそ夢が見つかり、目標が明確になります。それでも時には上手くいかないこともあるでしょう。しかし、失敗したときに正面から向き合い、

また立ち上がれば、失敗の数だけ成長できます。

さて、昨年は、ラグビーワールドカップ日本大会が開催され、日本チームが大会史上初めてベスト8になるという快挙を成し遂げ、日本中は大いに湧きました。その中で國學院大學栃木高校出身の田村優選手がチームの中心となって活躍してくれたことは、私たち関係者に、さらに大きな喜びをもたらしてくれました。その日本チームのメンバーの合い言葉である「One Team」は、至る所で多くの人たちに使われ、流行語にもなりました。この言葉ですが、ただ単に心をつ一つにしてとか、お互いに助け合っとかいうものではありません。知っての通り日本代表チームと言っても、ある基準を満たせばその国の代表選手となり、チームは多くの人種、民族から成り立っています。つまり、異なる言語、文化、習慣などを持った選手が集まっているチームなのです。それぞれの違いを互いに認め合い目的に向かって一つになる、それが「One Team」なのです。つまり、それがダイバシティ、多様性の世界、私たちが生きている世界の本来の姿です。

人は皆違う人間です。この当たり前のことを忘れないでほしいのです。皆さんは一人ひとりが地球上にたった一人しかいない掛け替えのない存在です。そして、自分を大切にするように、世界中にたった一人しかいない隣りの人、身近な人も同じように大切にしてください。皆さんは縁あって、様々な地域から集まり、同じ学校で6年間一緒に生活することになりました。皆さんには、それぞれ長所と短所があります。だからこそ互いに理解し、認め合い、かばい合い、協力し合うことが大切です。皆さんの様々な力を集める時、すぐには見えませんが、きっと素晴らしいものを生み出すことができると思います。6年間一緒に過ごし、喜びも悲しみも共有し、強い絆で結ばれることによって、想像以上のパワーを発揮する、それこそが中高一貫組の大きな特長です。

ところで、現在、世界はウイルス感染の恐れという状況の中にあり、皆さんも緊張、不安、我慢の毎日を送っていることと思います。残念ながら、世の中には自分ではどうすることも出来ないことに遭遇することがあるものです。ですから、感染予防に引き続き努めながらも、この先に希望があることを信じて、しっかり踏ん張るしかありません。栃木市出身の文豪山本有三も詠じたことで有名なドイツの詩人ツェーザル・フライシュレンという人の詞があります。「くちびるに歌を持って 心に太陽を持って 人のためにも言葉を持って そして、こう語りかけよう 嵐が吹こうと 吹雪が来ようと 地上が争いで満たされようと くちびるに歌を持って 心に太陽を持って」。この詩にあるように、どのような困難に出遭おうとも、明るさと元気を忘れず、マイナスをプラスに変えるぞという気概を持って、これからの学校生活をスタートさせてほしいと思います。困難は必ず人を成長させ、困難を克服してこそ人は強くなります。

最後になりましたが、ご父母の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。六年間のうち中学校の三年間は、心身共に一段と成長していく時期です。それだけに悩みが多い時期でもあります。時には遠くから温かく見守り、時には真摯にお子様と向かい合っただきたいと思います。お子様が大切な中学時代を素直に伸び伸びと過ごせるよう教職員一同、心をつ一つにして努力いたしますので、ぜひ皆様の学校への深いご理解とご協力をお願い申し上げます。

さあ、新入生の皆さん、皆さんは、いよいよ國學院栃木の生徒としての第一歩を踏み出しました。これから心と頭と体を鍛えに鍛え、生涯に渡って心優しく、心たくましく生きていくための土台をしっかりと築いて下さい。皆さんの中学校生活が、実り多く豊かなものになることを心から願い、式辞といたします。

令和二年四月六日  
國學院大學栃木中学校  
校長 青木一男